

[特集] 内分泌疾患診断 のための 5 Steps

「見逃しやすい」を
「見逃さない」に変えるために

- [Step 1] 症状をわかりやすく聞き出して内分泌疾患を疑う
- [Step 2] 一般検査データから内分泌疾患を想起する
- [Step 3] 外見やホルモン値に惑わされないよう注意する
- [Step 4] 画像モダリティを選択して評価する
- [Step 5] 内分泌負荷試験を計画して確定診断する
- [座談会] いまだに記憶に蘇る内分泌疾患の発見秘話

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の3年にわたるパンデミックにより、一般健診や人間ドックなどの検査の機会や、いろいろと気になる症状で病院やかかりつけ医を受診するケースが減り、内科医が対面診療で、じっくりと隠れた病態を探り出すチャンスが減ってきたと思われる。少しでも早期発見すれば完治を期待できる内分泌疾患も多いなかで、その発見の遅れや健診控えから病態が長期化してしまうと、患者のQOLを損なうリスクもある。

本特集では、そんな内分泌疾患を、いかに見逃さないようにキャッチするか、5つのStepで各分野のエキスパートの先生をお招きしてご解説いただいた。まず、Step 1では日常臨床から内分泌疾患を疑うコツを、総合的な内科視点を踏まえてわかりやすく解説いただいた。Step 2では、ホルモン検査の選択の方法や、一般検査のデータからどのように内分泌疾患を想起するかについて、臨床検査の視点から紹介いただいた。Step 3では、検査結果と臨床所見の両者を意識すること、結果を鵜呑みにせず、内分泌データと診察所見の照らし合わせが重要であることを強調している。

さらに、advanced コースとして Step 4, 5 では、確定診断のために行われるさまざまな画像検査や負荷試験の意義や結果をきちんと解釈し、専門医にコンサルトする場面で知っておくべき知識についても概説いただいた。座談会では、著者と同世代になる素敵な3名の同志の先生方をお招きし、いまだに記憶に蘇る患者さんとの貴重な出会いや、診療の体験談について熱く語っていただいた。内分泌検査の今と昔、次世代内分泌医の育成などについて意見を交わし、温故知新の内分泌学として伝えたいことをまとめてみた。

まれなようでまれでない、そんな内分泌疾患の診療において、診断の鍵となるポイントを step by step で学ぶ機会を設け、内分泌異常の発見の秘訣から診断へのアプローチについて、広く内科医の皆さんや内科を目指す学生・研修医へ向けて発信したいと考え、本特集を企画した。今、まさに抱えている患者さんに関連したページだけ読まれても、もちろん一気に初めから読破されても、すぐに役立つ臨床 Tips が身につく内容に構成されている。読まれた皆さんが、これまで感じていたまれで難しい内分泌学から、楽しく身近な学問へと様変わりするようなパラダイムシフトを生み出す1冊になればと考えている。さあ皆さん、新しい general endocrinology の幕開けである。

大塚文男

(岡山大学 学術研究院医歯薬学域・総合内科学)